

年頭のご挨拶

ご挨拶



栗原 良太
熊谷商工会議所 会頭

新年明けましておめでとうございます。会員企業の皆様には令和8年の年頭に際しお健やかにお過ごしのこととご拝察申し上げます。

60年に一度の「丙午」。「丙も午も火の性質を持つことから情熱的で力強い年」とも言われているようですが、さて今年はどんな年になるのでしょうか？

高市新政権の経済政策について全貌が見えてこない現状ですが、コロナ後「新たなインフレの時代が来た」とは明らかです。

しかし、日本が大きく成長した「高度成長期のインフレ」とは異なり、当初「賃金インフレ」で始まった経済は、円安によって物価高に拍車がかかり、更に人手不足による供給力不足も加わり、「令和のインフレ」は過去の定義を覆す「異質のインフレ」とも受け取れる状況です。プライマリーバランスを軽視した積極財政は異なる「円安」を招きエネルギーコストの上昇だけでなく、「企業物価指数」の押し上げ圧力は強まるでしょう。

それに対応し中小企業が生き残るために道である「価格転嫁」の進捗率が昨年来から50%程度と話題になっていますが、私たち小規模企業・中堅企業に於いてはこの「価格転嫁進捗度」が大きな課題になると思います。

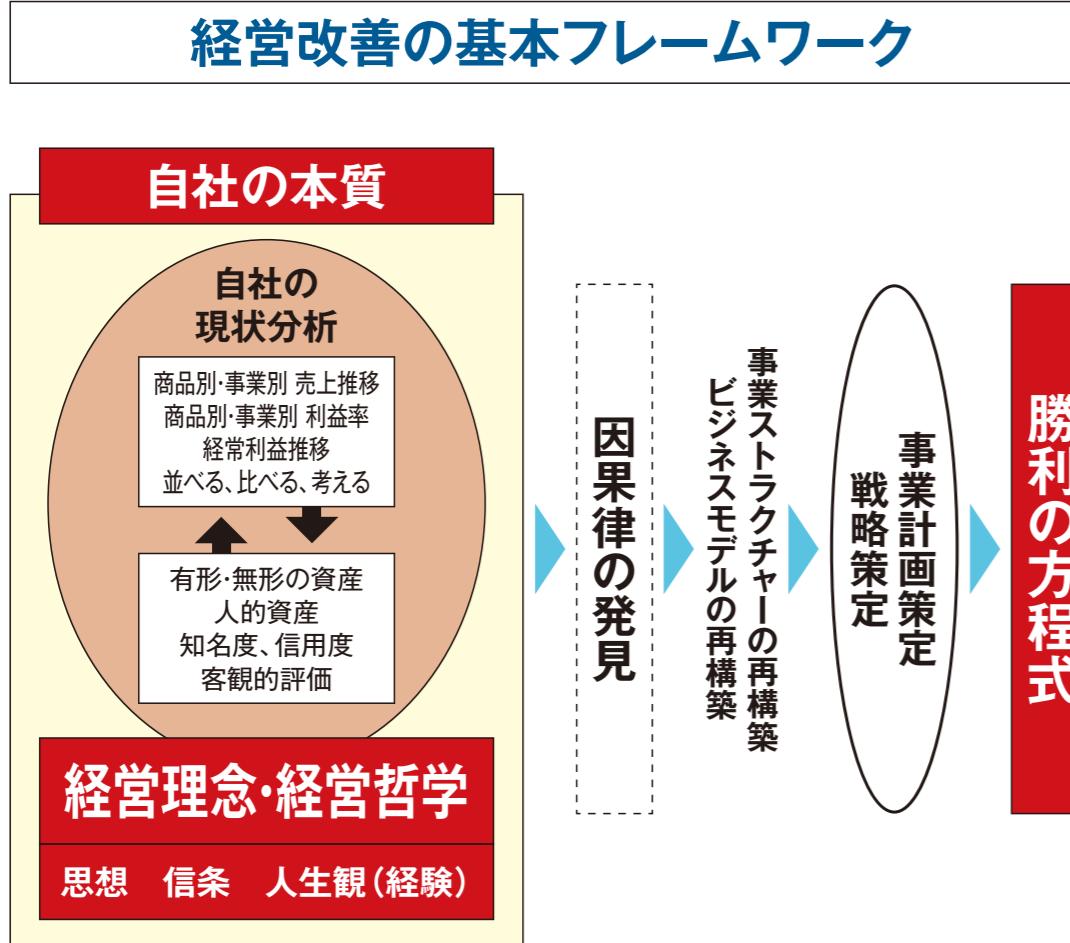
差別化された価値が明らかに存在する「ものやサービス」は「価格転嫁進捗率」が高められるものの、「差別化がしにくいもの

や「サービス」は価格転嫁率が低く抑えられ、そのためには、企業間格差が広がることが予想されます。

「どうしたらよいのか？」

今後、この点を中心には、経営戦略に奇策を練るのではなく、経営の基本戦略を忠実に土台から作り直すことが最大の近道であると考えます。その過程の中で何かの「気づき」に出会い、結果大きく事業転換できるものです。

「経営改善の基本フレームワーク」



に刻みつつ前に進めば、仕事をしているその瞬間に何気に充実感を感じられると思うのです。理念とは究極的に「人に喜ばれること」「顧客やクライアントに喜ばれること」だと思います。媚びつらいインセンティブを

つけて「喜んでもらう」ではありません。この「理念・哲学」については、今後の機会に順次私の考え方を不々皆さんと一緒に掘り下げて考えていきたいと思います。

「自社の本質」を見極める

次に「自社の現状分析」です。

上図のフレームワークには、経営判断のための数字を各種求めていますが、まずどこに会社にも必ずある決算書だけの範囲で説明してみます。しっかりと何かを読み取るために比率を出します。売上対売上原価率、売上総利益率、経常利益率、即ち比率で出しています。そしてそれを数年並べてみると必ず数字は上下して変化している筈なので、変化した時に何があったか(人的側面も含め)を良く思い出してみるのです。変化していない場合は、何故変化していないのか?これも良く思い起こしてみることです。何をしたのか?何があったのか?

売上だけを何年か並べてもその変化の中から何かが掴める筈です。注意しなければいけないのは、「心の中の言い訳やエスケープ」です。素直に是は是、非は非と認めることができます。自社の理念・哲学を才覚して経営すると正しい道(戦略)を見出しができると思います。

売上・売上原価・経常利益・商品別売上と粗利・会社の場所や形・設備・人(自分)・取引先などについても同じように考察を繰り返していくのです。

本質を見極めたらどうしていくか戦略を立てるのです。

私の持論では、弱点を是正するのではなく、強みを伸ばす方が良いと思います。「強み」とは、当然その事業、仕事、商品に力があり、利益率が高い筈ですから、強みを磨けば更に競争力は高められ、事業成功の常道に繋がります。これが「勝利の方程式」となるのです。

新年早々から、経営の具体論に入っていました。改めて丁寧に「現状把握」してみると新たに何かに「気づく」ものです。そこ大事なのは「問題意識と感性」です。

新しい年、会員企業の皆様にとって良い年になりますことをご祈念申し上げております。

「勝利の方程式」へ

一番風呂で

熊谷商工会議所 副会頭

松本 邦義

あるということくらいでしよう。

謹賀新年。本年もよろしくお願ひ致します。足下からその音が鳴り響くかのような変化の時代にあって、地域商工会議所に属していることの意味は何か。他社がどうするのか知りたいから、あるいは自らの生業を守るのに手一杯で地域のこと今まで気が回らない、等々の声も耳にする。國內どろか世界中どの地域にあっても1年先すら見通すことは困難で、積極的に打つて出られないというのは当然です。極論ですが、確実なのは今ここにある自分（自社）が積み上げてきた現状（実績）が

それは会議所のやることか?というご意見もあるかも知れません。しかしながら、会議所自身もチャレンジしなければなりません。埼玉県連会長に就任した(株)サイサンの川本武彦氏はLPGAS事業をベースに売電、発電にも早く取り組み、海外にも矢継ぎ早にアジア8カ国に進出、今度はアフリカ大陸に進出というやり手。彼が先代から叩き込まれたことに「一番風呂に飛び込め」という教え。水風呂だつたらすぐ出れば良い。入る前に温度確認や調整などするより他人に先んじて飛び込まねば利益は見込めないと。見習いたい。

あるビジネス調査によると自分には「何らかの力がある」と思う若い人はわずかに2%、「何の力もない」と思う人は98%という結果が出たそうです。驚きですが、端から力などないと思っている人が力を出すわけがないと嘆くよりは「何らか

本年、栗原良太新会頭の掲げる「本質を見極め勝利の方程式を見出そう!」を旗印に4人の副会頭が集まりました。その一人として微力ながら現実的な成果が皆様に感じられるようお支えする所存です。

今や平成・令和世代「ドラゴンボール、ワンピース、鬼滅の刃」「愉快な指導者、自由奔放」で仲間とビジョンのためになら「指導者には従順」。でも夢はあった。耐えて耐えて「いつかはクラウン、GTR」。今は意識的に「昔話し、自慢話、武勇伝」を封印し、エンパワーメントを「口にし始めた。そんなおじさんが増えて、地域に寄り添い、人に寄り添い一味違う楽しい熊谷になつたら面白いと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新年明けましておめでとうございます。

本年、栗原良太新会頭の掲げる「本質

を見極め勝利の方程式を見出そう!」

を旗印に4人の副会頭が集まりました。

その一人として微力ながら現実的な成

果が皆様に感じられるようお支えする所存

です。

の力がある」と思えるエンパワーメント人材が18%増えたら街も企業も景色が変わらかなあとと考えています。

6回目の年男を迎える昭和の私は「巨

人の星」世代「努力、根性、継続」そして

「指導者には従順」。でも夢はあった。耐

えて耐えて「いつかはクラウン、GTR」。



年頭所感

熊谷商工会議所 副会頭

栗原 秀樹

こころゆたかに

熊谷商工会議所 副会頭

佐久間 文彦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。先行き不透明感が漂い続ける中、私たちはどうのような「豊かさ」を求めた行動をとっているのでしょうか?

国の豊かさを示すGDPと生活の豊かさは必ずしも一致しませんが、生活の豊かさという面では、①経済的②時間的③精神的な豊かさ(余裕)が重要視されています。昨今、「ウェルビーイング」という考え方方が注目を浴びてきましたが、こちらでは①身体的②精神的③社会的な充実がキーワードになっています。

企業については、従業員個人が「自分

らしい充実した人生」を実現し、「事業を通じて地域や社会に貢献する」ことが理想です。

「こころゆたかに」は、中学卒業時に恩師から渡された色紙に書かれていた言葉ですが、今まさに「心の豊かさ」が求められているのではないか?

老子の思想に「足るを知る(知足)」といいうものがあります。これは、「自分の置かれた現状に満足し、持つているものに感謝する心のあり方」を教えとして示していっているので、自分を愛する「自分ファースト」ではないとともに、他人を尊重し、思いやることの大切さを説いています。

今年こそ、もう一度人生の原点に戻って、「感謝の気持ち」と「内面の充実」を大事にする年として行きたいと思います。

謹賀新年

熊谷商工会議所 副会頭

野村 泰豪

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は会員事業所の皆様におかれましては常日頃より当所事業にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。しかし、本年も引き続き変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昨今の高齢化による生産人口の減少が人件費高騰の一要因にもなっています。これが物価高にも一部連動しています。すでにデフレからは脱却したという観測も出始めていますが、しかしながら、今の景色は我ががかつて経験した昭和の高度経済成長時代のインフレ経済とは違った様相

なのは、日本経済の根底に人口減少という大問題を抱えているからでしょう。これは今まで誰も経験したことのない風景です。国家にとっても地方都市にとっても、人口減少は憂うべきことです。歴史上、人口減少している国家は必ず衰退します。将来、この人口問題を抱えるであろうことは昭和の終わりの統計数値を見れば容易に推測できたはずですが、効果的な政策は打ち出されませんでした。隣の国よりも日本が、隣の街よりは熊谷が、より魅力的になつて新たな住民を呼び込もうと行動することは、身近な解決策のひとつであると思います。生活基盤を伴った魅力度のあるまちづくりは官民の共通の願いであると感じています。

このようなことを含め、本質を見極めて会員企業様と共に前進めることを目指し、微力ながらも一年間活動していく所存です。末筆になりますが、皆様の益々のご繁栄を「祈念申しあげます。